

常盤貴子さん（女優）のコラムです。

マジック鑑賞は苦手

万人がマジック好きだと思ったら、大間違いなわけですよ。

確かにマジックというものは、とっても不思議で、一瞬のうちにパッと世界を変えてしまう面白さはある、と思う。

だけど、それに対して「わぁ、スゴイ！」と言えない人種もいることに、マジシャンたちは気づいているのだろうか。

マジックハラスメントと名付けちゃダメですかね？

時折、撮影の合間にマジックを披露し、共演者あちを大いに喜ばせてくれる俳優さんがいる。他の共演者やスタッフが一緒ならどうにか乗り切れるのだけれど、たった一人で対峙しなければならぬときが大問題。

マジックショーが始まりそんな雰囲気だけは決してつくってはいけないので、とにかく、ずーっとしゃべり続ける。

これが撮影以上に疲れてしまう。

始まってしまったら、進む先には恐ろしく不安定な“吊り橋”。

一步、一步、間違いがないように、私はどちらともいえない笑顔と、

「ふっ〜う」という曖昧な合いの手を入れながら慎重に渡っていく。

前半、何とかクリア。

中盤、危なっかしい気配はあったが、大丈夫。

さぁ、勝負の後半！ヒュードン。落下。無念。やっぱり失敗。

マジシャン渾身のドヤ顔、オチがやってきても、私はどうにも無反応。

かろうじて「あははっ、なるほどね」なんて言ったところで、そんなの全く求めていない反応だから、「リアクション薄いなあ」と失笑されてしまう。

きっと心の中では

「二度とコイツには見せてやらねえ」

「かわいくない女だせ」

なんて思われているんだろうな。

「はい、二度と見せないでくれると助かります」

「かわいいリアクションができる私だったら苦労していません」

と心の中でつぶやきながらも、やはり申し訳ない気持ちになってしまう。

そもそも、私はビックリしたくないのよねえ。

サプライズパーティーとか、本当に苦手だし。

しゃっくりが止まらなくて、何回も「わあっ！」って驚かされるくらいなら、

しゃっくりさんとあだ名をつけられてもいいから放っておいてほしい。

そんな人にとっては、マジックがいかにストレスになるか、ご理解いただけると思う。

マジックハラスメント、あながち、言い過ぎでもないと思うんだけどなあ。

2016年12月9日「秋田さきがけ新報」より